

造形通信

2026. 8月
NO.87
ひいらぎこども園

暑い暑い毎日が続いています。体温を超えるほどの暑さの中、外を歩くのに日傘は欠かせないものになってしまいました。朝にプランターの花にたっぷり水をやっても、夕方には花も葉っぱもぐったりしているように見えます。この暑さはいつまで続くのでしょうか。クーラーの風ではなく、自然の風が吹いてくれる日が待ち遠しいです。

ゆらゆら風鈴！

風に揺られて



牛乳パックや和紙をミキサーに入れ、水を混ぜてドロドロにします。次に、はがき大の大きさの枠に入れ、手で押して水分を抜きます。枠から外し、乾燥させて出来上がり。プリンカップにボスカで思い思いに模様を描きました。自分だけの風鈴ができあがりました。風に揺れる風鈴が、ほんの少し涼しさを運んでくれます。

つかんで

つぶして

おもしろい！



着色した大きな寒天のかたまり！こどもたちは触ってその弾力を感じ取ります。



あっという間に、大きな塊はくだけていきます。握って、ムニュっという感触がおもしろそうです。



着色した氷を触って、その冷たさを感じます。

土の感触

気持ちいい！

どろんこひろばの砂場に掘った大きな穴に水をためています。何とも言えないぬるっとした泥の感触！この感触が気持ちいい！



様々なものに触れてその材質の堅さ、やわらかさ、冷たさ、あたたかさを感じていきます。乳児期の感触遊びで、こどもたちは五感を働かせていきます。

自分の目で見、自分の手で触って感じる、そして周りの人とその楽しさを共有することはとても大切なことです。映像でみるだけでなく、実際に自分の肌や目で感じることで、そして周りの人と楽しさを共有することが頭も心もたがやすことになります。

氷絵の具を触っているうちに、足元の周りに素敵なアートができました。

